

「リスク・フリー・レートに関する勉強会」第14回議事要旨

(平成28年10月28日(金) 16時30分～17時30分、日本銀行本店会議室)

- 第13回議事要旨が承認され、日本銀行ホームページ上で公表することが承認された。
- 事務局から、リスク・フリー・レートに関する国際的な議論の動向についてアップデートが行われた。ISDAからは、FSBからの要請に基づき、LIBOR、EURIBORおよびTIBORを参照するデリバティブ契約の頑健性向上に関する検討部会を立ち上げることが報告され、勉強会メンバーに対し、日本円部会への参加が呼び掛けられた。
- わが国のレポ指標構築に関する予備的な検討ワーキング・グループからの最終報告が行われ、レポ指標の案としては、前回勉強会において議論された①レファレンス方式、②ブローカー加重平均方式および③清算取引加重平均方式のうち、①と②を一本化し、レファレンス方式と清算取引加重平均方式に纏めたことが報告された。そのうえで、いずれの方式も、その具体化は2018年に予定されている銘柄後決めGCレポ取引の導入を踏まえて検討されるべきことが報告された。なお、リスク・フリー・レートとして特定されるか否かにかかわらずレポ市場の透明性向上という観点から、実取引ベースのレポ指標を整備すること自体には意義があるとの意見もあわせて報告された。
- こうした報告を受け、議論を行った結果、レポ指標については、現時点ではリスク・フリー・レートとして特定することはできないと考えられるが、実取引ベースのレポ指標の整備自体は意義があるとの意見集約が、勉強会としてなされた。
- 続いて日本銀行から、無担保コール市場の動向について説明があり、議論を行った結果、マイナス金利政策導入後も、市場の厚みや参加者の多様性については、引き続き維持されているとの結論に至った。
- こうした議論を受け、議長より、無担保コール0/N物レートを日本円におけるリスク・フリー・レートとして特定する内容の報告書の起案を事務局に指示することが提案され、了承された。
- 最後に、議長より、次回会合は11月下旬から12月上旬にかけて開催し、日本円のリスク・フリー・レートの特定にかかる報告書案について議論する予定であることが示された。

以上

「リスク・フリー・レートに関する勉強会」第 14 回会合 参加者

(メンバー)

議	長	三井住友銀行	桂田大成
副	議	野村證券	橋本茂
		S M B C 日興証券	尾島一博
		S M B C 日興証券	中尾司
		ゴールドマン・サックス証券	田口研吾
		大和証券	帯刀和直
		ドイツ証券	河野雅文
		ドイツ銀行	平野恵
		バークレイズ証券	浅井大輔
		みずほ銀行	久保秀樹
		みずほ証券	葛西弘道
		三井住友銀行	井原直樹
		三井住友銀行	嶋忠明
		三菱東京UFJ銀行	根木信和
		三菱UFJモルガン・スタンレー証券	関岳洋
		モルガン・スタンレーMUFJ証券	五十嵐健彦
		ユービーエス・エイ・ジー	井上裕嗣
		I S D A	森田智子
		I S D A	有馬康修
		I S D A	北野秀雄
		全国銀行協会	小山寛隆
		全国銀行協会	長谷川哲也
		日本証券業協会	丸野雅人
		日本証券業協会	中瀬裕也
		日本証券業協会	武田創

(オブザーバー)

日本証券クリアリング機構

矢野 睦

日本証券クリアリング機構

佐々木 隆雄

金 融 庁

兼高 淑江

金 融 庁

丹羽 啓介

金 融 庁

宮内 文

金 融 庁

宮地 光一

日 本 銀 行

飯島 浩太

日 本 銀 行

清水 茂

(敬称略)

以 上